

研究協力をお願い

札幌孝仁会記念病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

課題名

終末期心不全患者の死の受容プロセスを振り返って

1. 研究の対象および研究対象期間

2025 年 7 月～2025 年 10 月に当院 ICU および病棟において、僧帽弁腱索断裂による緊急手術後に新たな腱索断裂を再発し、意思決定の変更（治療から緩和ケアへの移行）を余儀なくされた心不全患者さん、およびそのご家族を対象とします。

2. 研究目的・方法

心不全患者さんの病状は、急変や症状緩和を繰り返す予測困難な軌跡をたどり、患者・家族様の心理状態に大きな動揺をもたらし、特に、外科的治療後に新たな腱索断裂を生じるような事例では、回復への期待から一転して終末期へと移行するため、より高度な意思決定支援（ACP）と包括的な緩和ケアが求められます。

本研究の目的は、僧帽弁腱索断裂の再発により回復困難となった高齢心不全患者さんの事例を振り返り、病みの軌跡を踏まえた患者・家族様への身体的・心理的支援のプロセスを分析することです。本事例の看護介入をリサーチ・クエスチョンとして検証することは、心不全終末期における「本人らしい死の受容」を支えるエンドオブライフケアの発展に寄与し、今後の看護実践における実践知として高い社会的・学術的意義を持つと考えられます。

本研究は、単一事例を対象とした記述的・事例研究です。経過中に記録された電子カルテの看護記録、経過表、および介入した看護師のリフレクション記録からデータを抽出し、分析にあたっては、心不全の「病みの軌跡」に基づき、時系列（ICU 入室時、病状安定期、再断裂出現による病状悪化・緩和ケア移行期）に沿って患者・家族様の心理的变化と、それに対する意思決定支援（ACP）および家族ケアのプロセスを構造的に分析・考察するものです。

研究対象期間

2025 年 7 月 10 日～2025 年 12 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

経過中に記録された電子カルテの看護記録、経過表、および介入した看護師のリフレクション記録からデータを抽出します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者・家族様もしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者・家族様に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院 看護部 ICU

研究責任者氏名：井上真奈美

住所：063-0052 札幌市西区宮の沢 2 条 1 丁目 16-1 電話番号：011-665-0020

その他、本研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反（conflict of interest）はありません。